写真：セルゲイ・キビリン、アンドレイ・ゴロバノフ

燃えるような17日間

最初のヨーロッパ競技大会 （ユーロリンピック） の主催国としての役割を見事に果たしたアゼルバイジャンは，その運営能力と潜在的な経済力，さらには国際的に開かれ，あらゆる地域と協力できる可能性を世界に示しました。

色眼鏡をかけずに見ればわかるでしょう。ユーロリンピックのためにバクーを訪れた人々が驚きのあまり呆然としたままアゼルバイジャンの首都を去っていったことが。バクーの街は彼らを驚嘆させ，心を奪い，魅力の虜にしました。なんといっても来訪者ひとりひとりがスポーツイベントという楽しい休暇を通してバクーにふとした愛着を自然に感じてくれたのは，上首尾に終わったと言えるでしょう。これが将来にわたるバクーへの好印象へとつながってゆくのです。間違いありません。

第一印象はもっとも鮮烈でもっとも記憶に残ります。大会のためにやって来た人々にとって，大会はバクーの空の玄関口であるヘイダル・アリエフ国際空港の印象と結びついています。ユーロリンピックのために到着したアスリートたちは6月のはじめにまさにここで出迎えられ，大会終了後はここから見送られたのです。

バクー空港はまさしく世界に名だたる空港の1つといえます。広く美しくそして快適で，世界中からたくさんの乗客や荷物を受け取り，送り出すことができるように地下のコントロール施設から地上4階のオフィスまですべて最新鋭の設備が整っています。また，国外の数多くの航空会社が乗り換え，積み換えのハブとして利用するルートとなっています。旅客専用のフラッグ・キャリアであるアゼルバイジャン航空（AZAL）とこの地域最大の貨物航空会社であるシルク・ウェイ・ウェスト

航空もここを拠点としています。イギリスのコンサルティング会社Skytraxはヘイダル・アリエフ国際空港に最高の「4つ星」をつけました。また，AZALにも4つ星がつけられています。格付け会社にサービスの質が評価された結果です。

とはいえ空港は大会のゲストにとっては単なる序曲に過ぎません。メインとなる交響曲が鳴り響くバクーの街は，立派なハイウェイを30分かけて走り抜け，空港と市内との間に広がる広大なオリーブ畑を通り抜けた先にあるからです。信じ難いことに，3年前までは不毛の砂漠に黒い油にまみれた池が点在するのみだったのです。それは150年にわたるアブシェロン半島での石油採掘によってもたらされた負の遺産でした。

ユーロリンピックの舞台となったアゼルバイジャンの首都は，古くからの神秘的な過去の歴史と輝かしく美しい現代とを持つすばらしい都市です。超現代的なビルが並ぶ地区がアクアマリン色のバクー湾を取り囲む円形劇場のように広がり，カスピ海沿岸にはヨーロッパで最も長い遊歩道が整備されています。そこには通りや広場に挟まれて緑豊かな公園やさまざまな噴水が目を楽しませてくれる庭園が並びます。バクーの博物館や図書館には貴重な宝物や資料を所蔵され，劇場やコンサートホールでは世界的なアーティストが舞台に上がり，美術館では偉大な画家や彫刻家の作品が並びます。

バクーの中心にあるイチェリ・シェヘルは，70本もの高い塔を備えた胸壁に囲まれた中世からの歴史ある旧市街です。貴重で保存状態が良いため，シルヴァンシャー宮殿とともにユネスコの世界遺産リストに登録されています。心安らぐイチェリ・シェヘルの細い路地には，あちこちに小さなカフェやレストランがあり，他では味わえないアゼルバイジャン風ケバ

IRS スポーツ

ブや香り高いピラフを楽しんだり，座って強い芳香を持つお茶をわうことができます。また，近くには似通った小さな店が軒を連ね，シルクでできたさまざまな模様のショールやカーペット，絨毯，それに銅製の皿や陶磁器の他，バクーを訪れた証となるようなものが所狭しと並べられています。

イチェリ・シェヘルを海から守っているのは，由来を紀元前に遡ることができる「乙女の塔」です。バクー市民は，ピサの市民にとってのピサの斜塔と同じくらい，この「乙女の塔」を誇りにしています。最近までバクーのシンボルと呼ぶことができたのはこれだけでした。しかし数年前，ヘイダル・アリエフ・センターというまるで夢のような場所がバクーに完成しました。ザハ・ハディドのプロジェクトによって建てられ，専門家が口を揃えて建築の驚異だと断言するほどのこの建物ができた現在，アゼルバイジャンの首都は2つのシンボルがあります。古いものと新しいもの，その間にはバクーの2500年の歴史が横たわっているのです。

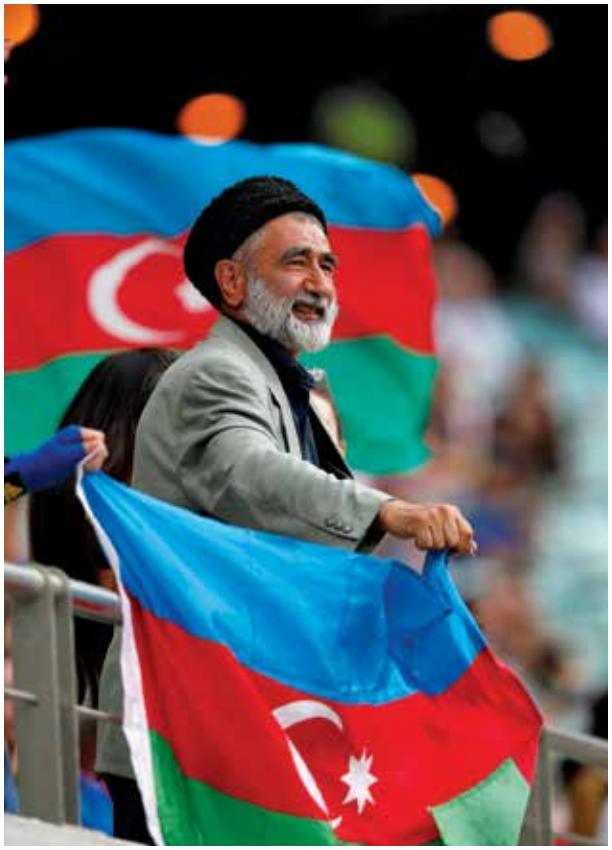
さらに，バクーには近代的な国際ホテルが立ち並び，数多くのスーパーマーケットやブティックがあるほか，快適なインターチェンジをもつ広い自動車道路，それに驚くほどきれいな地下鉄をはじめ便利な公共交通機関が揃っています。ここ十数年の間でバクーが多層的で大規模なインフラ整備を行い，一度に何万人もの来訪客を迎えることを可能にしたという事実は，2012年のユーロビジョンの開催によって裏付けられています。この時は最新のポップソングを楽しむために40,000人ものファンがバクーに詰めかけました。バクーの街は彼ら全員を受け入れ，宿泊場所と食事を提供しました。そして誰もがそれに満足しました。バクーはスポーツ大会の会場となった経験もあります。ここアゼルバイジャンの首都では2002年以来36もの国際大会が開かれているのです。

しかし今回の第1回ユーロリンピックは，今までとまったく違う規模の大会です。参加するアスリートだけでも少なくとも6,000人が予想されています。ファンを

含めたらいったい何人に膨れあがることでしょう。それに加えて準備のために与えられた時間がわずか2年強しかありませんでした。通常であれば，オリンピック規模の大会を行うには少なくとも7年の準備期間が必要となります。それでもバクーはあらゆる想像を打ち破りました。バクー・オリンピック・スタジアム，トフィク・バフラモフ・スタジアム，ヘイダル・アリエフ・スポーツアリーナ，国立体育館，ウォータースポーツセンターなど，全部で18もの大規模スポーツ施設がゼロから，あるいは大規模な改修によって建てられました。しかもそのひとつひとつが驚くべきアイデアと最新鋭技術を結集させたものです。

アゼルバイジャンは2年前にとても重い責任を引き受けました。それは，新たにスポーツのための国際的なプロジェクトを立ち上げることであり，その水準はすでに存在する大陸規模の大会，すなわちパン・アメリカン大会，アジア大会，全アフリカ大会よりも低くあってはならず，むしろそれらを凌駕するようなものでなければなりません。そしてアゼルバイジャンはやり遂げたのです。ヨーロッパオリンピック委員会のパトリック・ヒッキー会長は「今回の大会に基づいて今後のヨーロッパ競技大会が開催されることになるだろう」とバクー2015大会を評価しています。

アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領は4月26日，古代のアテシュガフ寺院で，何世紀も燃え続けている炎からユーロリンピック最初の聖火を灯しました。その後，聖火ランナーはアゼルバイジャンのあらゆる地域を巡る5,500kmの行程を駆け抜け，70,000人近くの観客が拍手で迎える中，聖火は6月12日にバクーのオリンピック・スタジアムに届けられ



たのです。

バクーでの第一回ユーロリンピックの開会式は，その輝かしさと魅力の点で本物のオリンピックと同じ水準の出来映えとなりました。実際に見た人によれば，つい最近のソチ大会をも凌ぐものだったそうです。開会の祝典はたんなる成功と言うだけでは足りません。それはとても壮麗で色彩豊かな，またメインスタジアムを包んだすばらしい雰囲気からわかるように，とても心温まるものでした。

トルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領，ロシアのウラジミール・プーチン大統領，ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領，モナコ公アルバート2世，IOCのトマス・バッハ会長，ヨーロッパオリンピック委員会のパトリック・ヒッキー会長をはじめ，その他にもヨーロッパとアジアの国々や政治的，社会的組

織を正式に代表する著名な人々が特別ゲストとして列席したことで，この式典に重要性と特別な厳粛さとが加えられました。ゲストの方々はアゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領と，この見事なスポーツ大会の運営に尽力した大会組織委員長メフリバン・アリエヴァと面会しました。

スタンディング・オベーションの中，第1回ユーロリンピックの聖火をスタジアムへと届けたのは伝説の世界的アスリートの1人，イルハム・ザキエフ選手でした。彼はパラリンピックで2度優勝しただけでなく，世界選手権で2回，ヨーロッパ選手権で5回優勝した経歴を持っています。聖火の点灯が終わると選手の入場行進が始まります。伝統にしたがって，オリンピックの生まれた地ギリシャの選手団から入場し，最後尾をアゼルバイジャンチームが飾りました。この日にアリーナを行進する才能ある若い人々を，ヨーロッパ中からバクーに集まったアスリートたちの幸せそうな顔を忘れることはできません。

第1回ユーロリンピックでロシアやドイツと並び，選手団の規模がもっとも大きかったのは主催国のアゼルバイジャンで

した。派遣された人数はロシアが359名，ドイツが266名でアゼルバイジャンが289名でした。彼らのうちの多くはすでにヨーロッパ選手権や世界選手権，オリンピックでの入賞経験がありました。選手団の中にはその他にも多くの若い選手が含まれていました。彼らにとってはバクー2015大会がスポーツの分野で活躍するためのチャンスなのです。ヨーロッパにイスラエルを加えた50の国と地域を代表する総計6,000人ものアスリートがスタンドの前を通過していったのです。そのうちの150人がオリンピックのメダリスト，200人は世界 チャンピオンでした。

そしてついに歴史的瞬間がやってきました。イルハム・アリエフ大統領が第1回ヨーロッパ競技大会の開会を宣言したのです。そして次に壮観なショーが始まりました。2000人を超える人々と，28ヵ国から300以上の芸術家グループが参加したこのショーではアゼルバイジャンの長い歴史と豊かな文化に関係するさまざまなトピックが扱われました。具体的には，アゼルバイジャンの民族衣装をまとった女性たちのダンスが，世界的に有名なアゼルバイジャン絨毯の複雑な模様へと展開しました。そしてもちろん，アゼルバイジャンの偉大な詩人ニザーミー・ギャンジェヴィーの作品の登場人物たちもアリーナに姿を見せました。ニザーミーの遺した作品は最高の文学的価値を持っています。

アゼルバイジャンの有名な歌手アリム・カシモフによってムガムの魅力的な音色が披露され，20世紀の偉大な作曲家，ウゼイル・ハジベヨフ，カラ・カラーエフ，フィクレト・アミーロフの旋律が鳴り響きました。スタジアムの頭上では巨大なザクロの実がはじけ，無数の深紅の種子を表す風船が空へとあふれ出てゆきました。ザクロは富と繁栄の象徴で，地上に生きる人々の統合の象徴として知られています。そしてそれに人々が答えるかのように，魔法のような花火の光が空いっ

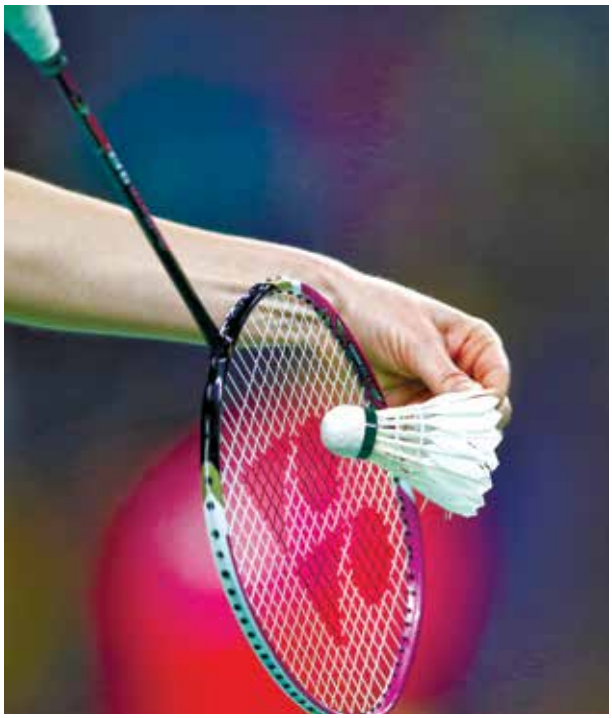
ぱいに広がりました。

スタジアムの観客の目の前には次々にすばらしい光景があらわれました。2万年前から人類が住み着いていたコブスタンの岩山，古代の旅人にアゼルバイジャンを「炎の国」と呼ばしめた地表から燃え上がる炎，そして沿岸部が強大な国や帝国の発祥地となったカスピ海，あるいは「過酷なハザール」の水面。スタジアム全体が魅力的なアゼルバイジャン音楽に包まれ，最後に何百人もの若者が手を取って，世界最古の踊りの1つといわれるヤーリを披露しました。

メディア，スタンドの観客，そして世界中でこの式典を見ていた何千万もの視聴者たちは皆，第1回ユーロリンピックの開会式は長い間記憶に残るだろうということで意見が一致しました。そして翌日からはアスリートたちが舞台に立ちます。

ユーロリンピックではメダルに事欠くということはありません。最終的にバクーでは20種目総計253組の金・銀・銅メダルをかけてアスリートたちが競技を行いました。それでもやはりどのチームにとっても，最初の金メダルを獲得することは重要で名誉あることでした。個々の競技ではマウンテンバイクとトライアスロン女子がほぼ同時に開始し，結果的にはスイスの独壇場となりました。

幸運なことに，アゼルバイジャンの応援団の落胆は長く続きませんでした。スイスの凱旋があった朝と同日，主催国は最初の金メダルを獲得したのです。競技は空手の75kg級で，世界選手権で4度，



ヨーロッパ大会で7度チャンピオンの座に輝いているラファイル・アガーエフが第1位となりました。

この勝利は，アゼルバイジャンのアスリートたちが自身の能力を発揮するだけでなく，他の選手を凌駕することができるスポーツであることを示したという点で象徴的なものとなったと同時に，おそらくは今後を予言するようなものとなったのです。そのスポーツとはもちろん格闘技のことで，この国にパハラヴァーンと呼ばれる伝統的なレスラーがいることからも明らかです。

アゼルバイジャンでは，レスリングは古代から育まれてきた，誰もが尊敬するスポーツです。かつてパハラヴァーンと呼ばれるレスラーたちは，日本の相撲の関取のように名が知られて人気者になり，今日のポップスター以上に注目される存在でした。「ズルハネ」と呼ばれるパハラヴァーンたちの儀式は，特別に建てられた道場で，厳格なルールと「ムルシェド」と呼ばれる審判立ち会いのもと行われます。レスリングの人気，あるいは国におけるレスリングの重要性といっても良いかもしれませんが，それを裏付けるのはこうした事実の存在です。かつてない規模の封建的官僚制度のヒエラルキーを打ち立てたサファヴィー朝の時代（14〜18世紀）には，「パハラヴァーンバーシー」と呼ばれる役職つまり「パハラヴァーン長官」がいました。これは事実上，世界史上初の「スポーツ大臣」と言えるものでした。

この肥沃な大地に，偉大なアスリートたちが生を受けてきました。20世紀半ば以来，アゼルバイジャンのレスラーは国際的な競技大会により積極的に参加してきました。彼らはヨーロッパ選手権や世界選手権，さらにオリンピックでも繰り返しメダルを獲得してきました。女性もまた，さまざまな格闘技で際立った成功を収めてきたことも指摘できます。近年では女性は男性に劣らず活躍しています。

アゼルバイジャンのアスリートはバクーでの第1回ユーロリンピックで優れた能力と不屈の精神でを示し，父祖の教えへの忠誠をさらに強固にしました。そして，グレコローマンスタイルのレスリング競技では，ラスル・チュナエフとエルヴィン・ムルサリエフが金を，ラフィグ・フセイノフとサバフ・シャリアーティが銀を，そしてハサン・アリエフとエルマン・ムフタロフが銅メダルをそれぞれ獲得しました。

フリースタイルレスリング競技でアゼルバイジャンチームが集めたメダル獲得数はまさにすばらしい成果です。トグルル・アスガロフ，ヘタグ・ガジュモフ，ミラド・ベイギ・ハルチェガニ，マリヤ・スタドニク，アンゼラ・ドロガンが金メダル，ジャブライル・ハサノフ，ハージー・アリエフ，ジャマラディン・マハンマドフとナタリア・シニシーナが銅メダルに輝きました。

空手では，アイハン・ママエフ，フィルドヴシ・ファルザリエフ，ラファイル・アガーエフとイリーナ・ザレツカが金メダル，ニヤズィ・アリエフとイラハ・カシモーヴァが銅メダルを獲得しました。テコンドーでは，アイハン・タギザデフが金メダルに輝き，ファリド・アズィゾフが銀，そしてパティマト・アバカローヴァという若いアスリートが銅メダルを獲得しました。

そのうえ，ナザカート・ハリローヴァ，イスラーム・カシモーフ，アミル・カシモーフ，ヴァシフ・サファルバイェフが銀メダルを獲得したので，上記のリストはさらに長くなります。

また，ボクシングではタイフル・アリエフが，銅とはいえアゼルバイジャン代表で最初にメダルを獲得すると，それを端

RUSSIA

緒に他の代表選手のメダルが相次ぎました。金メダルを獲得したのはテイムル・マンマドフ，コッラゾ・ソトマヨール，アルベルト・サリモフ，エルヴィン・マミシュザデフ，パルヴィズ・バギロフ，アブドゥルガディル・アブドゥライエフ，銀メダルはオルクハン・サファロフとハイブラ・ムサリエフ，　銅メダルはアンナ・アリマルダノヴァ，ヤーナ・アレクセイエヴァとマハンマドラスル・マジドフです。アゼルバイジャンのスポーツ史上，これだけの才能が結集したのははじめてのことです。

当然のことながら，バクーのスポーツファンは何よりもまずリングや畳のマットでの戦いに注意を向けていましたが，他の体育館でも格闘技に引けを取らないさまざまな興味深い戦いが繰り広げられていました。

カヌーとカヤックの競技が行われたミンガチェヴィルの水上コースで，アゼルバイジャンの水のプロたちは苦戦を強いられました。チームは主に若い選手から構成されていましたが，王者を目指した戦いは妥協を許さないものでした。ハンガリーチームはボートレース競技において向かうところ敵無しで，他のどのチームよりも多くのメダルを獲得しました。ドイツの選手たちも肉薄しましたが，わずかに及びませんでした。

もちろん，ユーロリンピックで行われるあらゆるスポーツでアゼルバイジャンが活躍すると考えるのは無邪気すぎるのかもしれません。バクーに集まったのは決して新参者たちではなく，彼らにメダルを諦めるつもりなどないのです。しかし，だからこそフェンシングのサーベル競技でセヴィル・ブニヤドヴァが銀メダル，セヴィニ・ブニヤドヴァが銅メダルを獲得したときのファンの喜びはよりいっそう大きなものとなったのです。2人の女子は非常に厳しい相手と戦い，とても貴重な勝利をあげました。伝統的にフランスとイタリアが強い中で，最強のフェンサーとしての地位を獲得できたことはたいへん名誉あることなのです。

バクーでの大会の結果はおそらく，その過程まで含めて，洞察力に優れるアナリストにとってさえも驚くべきことでした。たとえロシアや他のスポーツ大国が多くの種目で勝利すると予定されていたとして，誰ひとりとしてアゼルバイジャンの驚くべき活躍を期待していませんでした。しかしアゼルバイジャンチームは初日からメダルを次々と獲得し，勝利を目指す対戦相手を文字通り「制圧」したのです。

5個，9個，12個と集まりはじめたメダルは20個を超え，30個，40個，50個と積み上がってゆきました。この様子を国外のジャーナリストは「驚異的だ」と書いています。急速に発展したこの国の状況をよく知っている人であれば「当然だ」と言うでしょう。アゼルバイジャンでは40のオリンピックスポーツセンターと数多くの世界クラスのスポーツ施設が建てられ，新しいスタジアムや運動場が次々にオープンしました。言うなればスポーツが社会で発展する土台がしっかりと打ち立てられたのです。そしてその結果，多くの才能ある若者を発見し，あらゆる能力を細部までしっかりと指導することが可能となったのです。このことはオリンピックの統計が明らかにしています。今後はアゼルバイジャン人にとってますます喜ばしいことになるでしょう。

2004年のアテネオリンピックではアゼルバイジャン代表選手は36人しかいませんでしたが。2008年の北京では44

人，2012年のロンドンでは53人になりました。オリンピックでの成果という点では向上しています。メダルの個数で言えば，アゼルバイジャンはアテネでは5個，北京では7個，ロンドンでは10個（そのうち金が2個）のメダルを獲得しました。ロンドンオリンピックでは全参加国のうち第30位，ヨーロッパ諸国の中では第15位につけました。去年開催されたユース・オリンピックではアゼルバイジャンは全参加国のうち第10位に上がりました。アゼルバイジャンは，すでにいくつかのスポーツでトップ国の1つになっており，他の種目でもその地位をめきめきと上げています。

アゼルバイジャンでスポーツが発展したことは疑いのない事実であり，このことは第1回ユーロリンピックでも証明されました。アゼルバイジャンは参加国中第2位に輝き，金が21個，銀が15個，銅が20個の合わせて56のメダルを獲得しました。ロシアやイギリス，ドイツやフランスに代表されるヨーロッパのスポーツ大国の存在を考えれば，著しい成果です。

とはいえ，これだけ多くのメダルを獲得したことは，バクーでのスポーツの祭典があげた主要な成果とは言えません。

バクーでの第1回ヨーロッパ競技大会は，スポーツ史上もっとも輝かしいイベントの1つとして記憶されるでしょう。競技が行われた17日間は世界中の全てのスポーツファンにとって本物の祭典でした。「炎の国」での17日間は，大変な苦闘と栄光ある勝利の17日間だったのです。